

大山の野鳥

変化する木々の葉色や虫の鳴き声だけではなく、行き交う鳥たちからも、大山の季節の移ろいを感じることができる。大山は約 160 種類の鳥の生息地であり、通年いる鳥と繁殖期にエサを求めてやって来る渡り鳥の両方を観察することができる。標高 800 ～ 1,400 メートルに見られるブナとミズナラの林は、多くの鳥たちを迎えている。林床を覆う藪が鳥たちを守り、冬の間にもエサも提供してくれる。

3 月の雪解け時期になると渡り鳥ではない種の鳥たち、特にシジュウカラ族が活動を始める。大山自然歴史館付近の屋根にセグロセキレイやホオジロが留まっている姿が見られる。道を下った大山寺橋に集うイワツバメは、3 月下旬に橋げたに巣を作る。

5 月下旬にはオオルリとキビタキという夏鳥が到着する。多くのカッコウ種も生息しており、ホオジロやセンダイムシクイの見えない隙を狙って自分たちの卵を巣に入れ、抱卵させる。秋の始まりまでにエナガやツグミなどの多くの種が群れてエサを探す。大山の厳しい冬の間でさえ、騒がしい鳥たちの群れをスキーリフトの下に見ることができる。